昭和54年度中近東地域大使会議出席公館長と事業団との懇談会議事録（要旨）

時：昭和54年12月15日

於：外務省南大会議室（751号室）

国際協力事業団

JICA
[redacted]
LIBRARY

総務
[redacted]
80 − 12

国際協力事業団
受入 '84. 8. 28 | 300
月日 | 36
登録No. 13452 | GAG

JICA LIBRARY
1043668[1]

目　次

Ⅰ 懇談会出席者 …… 3
Ⅱ 懇談会次第 …… 5
Ⅲ 議事録（要旨） …… 6

1 千葉中近東アフリカ局長挨拶 …… 6
2 総裁挨拶 …… 6
3 事業団役員紹介 …… 7
4 意見交換 …… 7
（前田大使；アフガニスタン） …… 7
（村田大使；アラブ首長国連邦） …… 8
（太田大使；アルジェリア） …… 9
（青田大使；イスラエル） …… 9
（中村大使（臨時代理）；イラク） …… 10
（黒田大使；エジプト） …… 11
（多田大使；カタル） …… 12
（高松大使；クウェイト） …… 13
（中村大使；サウディ・アラビア） …… 13
（小高大使；シリア） …… 14
（岡田大使；ジョルダン） …… 15

（平野大使 ； スーダン） …… 15
（田村大使 ； チュニジア） …… 18
（二階大使 ； トルコ） …… 18
（本野大使 ； モロッコ） …… 19
（西沢大使 ； リビア） …… 20
（山口大使 ； レバノン） …… 20

I 懇談会出席者

<公館長>	在アフガニスタン	前田利一大使
	在アラブ首長国連邦	村田良平大使
	在アルジェリア	太田正己大使
	在イスラエル	畜田長雄大使
	在イラク	加賀美秀夫大使
		中村義博臨時代理大使
	在イラン	和田力大使
	在エジプト（南イエメン兼任）	黒田瑞夫大使
	在カタル	多田利雄大使
	在クウェイト（バハレーン兼任）	高松雪雄大使
	在サウディアラビア（イエメン、オマーン兼任）	中村輝彦大使
	在シリア	小高正直大使
	在ジョルダン	岡田富美也大使
	在スーダン（ソマリア兼任）	平野文夫大使
	在チュニジア	田村豊大使
	在トルコ	二階重人大使

在モロッコ　　本野盛幸大使

在リビア　　西沢憲一郎大使

在レバノン　　山口広次大使
（サイプラス兼任）

<外務省>　千葉中近東アフリカ局長

西山経済協力局参事官

及び関係課長，担当官が陪席

<事業団>　法眼総裁

井上，荒勝 両副総裁

橘、瀬川，長尾，長谷川，有松，遠藤，

岸田、佐々木，風間，久留 各理事

Ⅱ 懇談会次第

1 開　会　（9：30）

1 千葉中近東アフリカ局長挨拶及び大使紹介

1 総裁挨拶及び事業団役員紹介

1 事業団事業説明

1 意見交換

1 閉　会　（11：00）

Ⅲ 議事録 （要旨）

1 千葉中近東アフリカ局長挨拶（代理； 西山経協局参事官）

経済協力の分野において技術協力が重要であり，特に産油国では，人材養成の必要性に迫られている。現在，有償専門家の派遣を検討中であるが，日本人専門家の給与が高いので，先方政府との折り合いに難しい点がある。又、専門家の心構えとして，ヨーロッパ人に比べ日本人は大きな庇護の下でないと海外に赴き，十分活躍することができがたいという問題点があるので，専門家の派遣にあたっては、この点を念頭におく必要がある。これらの点をふまえ、ご討議願いたい。

2 総裁挨拶

事業団も発足以来5年を経過し，いろいろな問題も解決されてきた。従来の技術協力は，総花的で多岐にわたり実施されてきたが，質は必ずしも満足できるものではなかった。今後は，新しい手法をとりいれて，的確なニーズに応えた質的・量的改善を図る必要がある。

各大使におかれては、現地の事情に精通されているので，いろいろと御意見を出していただきたい。

3　事業団役員紹介（橘理事）

4　意見交換

（前田大使　；　アフガニスタン）

革命以来，武装反乱地帯が多く危険な状態であり専門家8名及びその家族全員が引き揚げた．今後の状況については、的確な判断がつきかねるので専門家の派遣については在留邦人保護の観点から控えるべきと思われる。但し，カブールについては政治的には動いているが，地方の情勢とは異り，危険は無いのでプロジェクト協力は無理と思うが、結核研究所に対する機械供与、専門家派遣については実施可能と思われる。先方政府は，日本の協力を多としているが，先般の専門家引き揚げを日本の協力の後退と見るむきもあるので．この点に留意しつつ現状下で最も有効な協力を考えていただきたい。一般感

民に評価されるような援助の在り方が重要であろう。

（村田大使 ； アラブ首長国連邦）

(1) 日本は、石油を買うだけで何もしない、というやや不満があったが、最近漸く案件が出た。こういう案件は、有償で結構だが、気持だけでもわが方負担でやることが日本の協力の印象を強め、効果的と思われる（10～20％は日本負担で）。

(2) 有償プラス無償の案件についても、具体的なプロジェクトが出てこないので、こちらからニーズを探してやる必要がある。

(3) 招待外交を増やす必要があるが、その手続は、もっとスピードアップ（簡素化）すべきである。

(4) 短期（2～3週間）の専門家の派遣要請があっても現行制度の下では対応できないので制度の見直しが必要であろう。

(5) 先方政府全体で2ヶ月の休暇制度があり、専門家がこれを利用して任国外へ行こうとしても事業団の規定で認められない。規定の見直しが必要ではないか。

（太田大使；アルジェリア）

(1) 日本は、専門家の派遣が少い。要請がなかなか出てこないので，こちらからプッシュする必要があろう。

(2) 生活条件が極めて悪いのでオランにいる医療専門家は，まだ良いだろうが，電気通信関係者は大変苦労したであろう。

(3) 語学は英語だけでは無理であり仏語のできることが必要である。

(4) 受入側をよほど良く見てからでないと専門家は派遣すべきではない。

（吉田大使；イスラエル）

太陽エネルギーの研究がさかんであり、日本との協力を欲している。共同研究として進めてはどうか。日本の専門家に下見に来てもらいたい。

（総裁）

どういう専門家を出せばよいか，

（吉田大使）

基礎知識がないので、どの研究所と共同研究すればよいかを見ていただきたい。

（井上副総裁）

事業団の技術嘱託を派遣してもよい。

積極的に検討したい。

（総　裁）

通産省とも連絡をとって検討したい。

（中村臨時代理大使；イラク）

国づくりに精を出しているが、人づくりがネックになっている。日本との経済協力協定があり、今夏，江崎通産相が来られた時，日本の協力に大いに感謝しているとのことであった。専門家の派遣は困難とは思うが，先方の要望に応えてほしい。

（総　裁）

具体的に協力していきたい。

（長尾理事）

堀越専門家（冶金）が非常に高く評価されたので，再

度派遣したいが、詳細は検討中である。

（黒田大使；エジプト）

・多くの優れた調査団を派遣していただき感謝している。現在、サダト大統領が力をいれているのは、住宅建設と食糧増産である。

(1) 低コストで建てられる住宅を考えてほしい。

(2) 日本は小農式農業については、アドバイスできると思う。金をあまりかけずに農業の効率を高めるような方向でミッションを出してほしい。

(3) ヘルワン製鉄所の再建のために協力してほしい。

(4) ショブラの訓練センターは、予定より2年ばかり建設が遅れ、半分しかできていない。しかも電気がきていないので機械は動いていない，従って一部しか開校していない。今後は、短期方式にしてはどうか。

(5) カイロの小児科病院は、短期方式でやることとなった。

(6) F/Sレポートに基づき経済協力の可能性があるものに限り調査団を派遣してほしい。

（遠藤理事）

農業関係については多くのプロジェクト要請が出てき

ているが，可能性の高いのは「機械化農業」と「北の水利」である。ナセル湖周辺への協力は経済的に困難である。

（総　裁）

先方政府のプライオリティーをはっきりさせてもらうことが必要である。

（吉田大使；イスラエル）

イスラエルとエジプトは農業協力をしているので日本の調査団がエジプトを見た後でイスラエルに立ち寄って見ていただければ参考になると思う。

（多田大使；カタル）

(1) 産油国であるので有償協力が原則であるが，短期専門家派遣の場合は，旅費は日本負担，滞在費は相手国負担としてはどうか。

人材不足をうめるために専門家を入れるという基本的な考え方があるので，長期専門家は完全に有償でよいと思う。

(2) 高卒程度の者を将来ジュニア・エンジニアとして使う

ため研修員を2名日本へ出している。
企業ベースでの受入れも多い。

（高松大使；クウェイト）

(1) 日本への期待は大であり、何をやるか日本側が探してほしいとのことである。

(2) 現在3～4ケ所に大病院を建設しておりこれへの協力のため調査団を派遣してほしい。

(3) 環境問題として、砂漠がゴミすて場と化してきているという事実がある。

(4) 砂漠の緑化には、時間と金がかかり、なかなか実現しない。この件についても日本の協力を求めている。

(5) イラクとの関係が正常化してきており、その手はじめとして、シャトラアラブから水を引きその見返りとして電力をイラクに送るという計画があり、基本的に了解している。これについても帰任してから調査団派遣を稟請したい。

（中村大使；サウディ・アラビア）

(1) 先進国に対し技術移転を望んでおり、日本へも期待は

大きい。

(2) 専門家については、医療の面で札幌医大が援助し，評価されている。

(3) 有償協力でやってしかるべきであるが，問題は優秀な専門家を確保し、送り出すことである。

(4) 金があるといっても、手続的に時間がかかり，有償にこだわるのもどうかと思われる場合もある。

(5) 欧米指向があるので日本もそれを考える必要がある。

（小高大使；シリア）

(1) 専門家では獣医関係の評価が高いが，他の分野では協力が短く（1～2年）評価できない。

(2) 協力隊員は，ここ1、2年で増大し（26人）大部分は牧場で働いており、酪農公団絶賛も評価している。しかし私生活の面では問題があり、出発前にもっと国際的教養をつける必要がある。

（佐々木理事）

しっかりと指導しなければならないと思う。又，現場にいる駐在員の指導も強化したい。

（小高大使）

駐在員は、忙しすぎて隊員の私生活の指導までもがまわらないと思う，しかし、それ以前の問題であると思う。

（岡田大使；ジョルダン）

(1) 北部総合開発は、先方と我が方のニーズがかみ合った良い例である。今度は中部地域での要請が出ている。

(2) 研修員関係では、帰国後のフォローが大事ではないか。高級研修員については，「格」が違うということを認識してほしい。

（平野大使；スーダン）

(1) 研修員受入れはたいへん評価されている。

(2) 専門家については、カウンターパートに技術を教えるだけでなく緊急案件については、直接働いてもらう専門家の派遣がほしい。

(3) 無償援助については、スーダンが入札を行っているが、不慣れでもあり、又、金額が大になると東銀に手数料も取られ、さらに日本の商社が暗躍し、「日本は高いものをつかませている」という考えがある。そこで事業団が

入札するという方法がとれないものか。

(4) ソマリア関係。現在，漁業専門家が派遣されているが，在外公館のない所で技術協力を行うのは困難である。相手国の経済企画庁のような所に人を出せば内情がわかって良いのではないか。

（風間理事）

事業団が入札することは出来ないかという点については，従来は、現地で入札しているが相手国の公館があれば東京で入札することも可能である。事業団が直接入札を行うことも含め研究したい。日本が「金」のかわりに「物」を供与するという方法も日本の名儀にしたものを相手国政府名儀にかえるのも大変な手続が必要かと思われる。

次に日本のものは高いという点については，一部資材を日本から運ばねばならない場合も多く割高に見えることもあるが，今後、事情をよく説明する。

（総裁）

「物」で供与するという方法を外務省とも協議して検討したい。

（久保田経二課長）

(1) 無償資金協力の場合事業団に直接「金」をわたすのは，事業団法上不可能である。

(2) 日本側で完成させた「物」を相手国にわたす方法にも問題がある。つまり，無償資金の予算の目的・性格上，「財政的援助」ということになり「金」で相手にわたさなければならない。

(3) 将来，なるべく早い時期に，現実的に解決する必要がある。そのまはじめとして，

イ) 簡素化された随意契約

相手国政府にアドバイスをし手続を簡素化する，特に随契の際（アフリカではこのケースが多い）には，通常のベースではやらないよう業者を指導しているが，これを徹底させ無用な競争を避ける。

ロ) 統一的・効果的運用方法

事業団は，基本設計及び契約締結後のフォローの2点にかかわっている。問題が起こるのは契約締結以前である。今後は，無償資金協力と技術協力の一貫して効果的な運用方法を検討したい。

（田村大使 ； テュニジア ）

(1) 漁業・医薬管理については順調に行われている。しかし漁業については訓練船がなく実地訓練ができない。今回，漁業調査の船を貸してもらえないかとの提案をしたが駄目であった。

(2) 開発調査については、日本は良いパートナーであり，将来、カセブ揚水計画は電源開発の中心となろう，日本の手（円借）によって取り上げてもらいたい。

(3) 協力隊員は30名いる。延長希望者には延長させたい。ただ、フランス語の点で若干問題があるので派遣前の語学研修期間（4ヶ月）をフランス語に限って、延ばしてほしい。

（二階大使 ； トルコ ）

(1) 研修員の受入れについては順調である。

(2) 専門家派遣について，鉱山・電源開発に関してはルートが確立されており問題ないが、水産（イスタンブール職業高校）は協力が終了し専門家が帰ってしまい，このままでは仕組が日本式なので効果が薄れる恐れがあるのでフォローアップチームを派遣してほしい。

（本野大使；モロッコ）

研修員受入，専門家派遣，協力隊員，開発調査等いずれも順調である。

(1) 相手国は頭をさげて日本に要請することに抵抗があるので，その点配慮願いたい。

(2) フランスの影響から脱却し、他の外国とやって行きたいという路線に沿っている。

(3) 地域開発、工業化の指向があるがヨーロッパの保護主義で行きづまっている。

(4) 機械化を行うにしても，中間層の機材を扱う人材が不足している。

(5) 医療については、日本のレントゲン診断（胃カメラ，内視鏡 etc ）に興味をもっている。

(6) 海洋開発指向もあり，ぜひ漁業専門家の派遣をお願いする。

(7) ウランの開発調査は順調であり，成功すると大変評価されるであろう。

(8) 電源開発（多目的ダム）をも合わせた調査を拡大してやっていただきたい。

(9) 協力隊員は評価されており、又、駐在員も非常に多忙であるが、語学に関し若干の問題がある。隊員の意識向上に、VTRを見せており大変喜ばれている。

(山口大使 ; リビア)

(1) テクノクラートを増やすことが効果的である。

(2) 異質文化の輸入をきらっている。

(3) 専門家の受入準備は無いので派遣は困難であろう。

(4) 相手のニーズは、漠然としており、大規模であり、又、企業ベースでやるもののようである。

(5) 合同委員会で入札、出入国関係を議論したいといっている。

(6) 職業訓練センターをという要請がある。

(7) 大学に水産学科を設置するので専門家を要請している。

(8) 医療は2年前で途切れてしまったが、公衆手術、講義が必要である。又、在留邦人の希望として専門家派遣で日本人医師を1人出してほしいということがある。

(山口大使 ; レバノン)

(1) 国情が不安定であり、現在、経済協力はなく、又、技

術協力（専門家派遣）も最近はない。

(2) 研修員の受入枠をもらっているが国内の問題でなかなか出せない。

(3) 現在必要なのは赤十字的な緊急援助である。

（総 裁）

我々は，今後ともいっそうの努力をいたしたい。本日は、ありがとうございました。

以 上